

デュプニイ著公共的勞務の利用測定に就いて

De la mesure de l'utilité des travaux publics. (Annales des ponts et chaussées, 2^e semestre, 1844 pp. 332-375)

小 引

デュプニイ Dupuit (Arrent-Jale -Émile-Javénu) は一八〇四年 Piémont (當時佛領) に生れ、一八六六年巴里に於て逝く。一面に於て有名なる技師であると同時に他面に於て優れた經濟學者でもあった。

彼が經濟學に志したのは、其の職業として公共的勞務の仕事に従事したるに因ること多く、從て論ずる所の範圍も可成廣汎である。論文は主として雜誌、特に Journal des Économistes 並に Annales des ponts et chaussées に寄せられたものであるが、其の中重要なものとして Nouveau Dictionnaire d'Économie Politique に掲げられるものは次の如くである。

1. Considerations sur les frais d'entretien des routes. (1842)
2. De la législation actuelle des voies de transport; nécessité d'une réforme basée sur des principes rationnels.
3. De l'utilité et de sa mesure; de l'utilité publique. (1844)
4. De la mesure de l'utilité des travaux publics. (1844)
5. De l'influence des régeés sur l'utilité des voies de communication. (1849)

公共的勞務の利用測定に就いて

6 Du principe de la propriété et de la population.

7 Des crises, alimentaires et des moyens employés pour y remédier.

8 Effets de la liberté du commerce.

9 La liberté commerciale, son principe et ses conséquences. 1 vol.

經濟學上に於けるデュブユイの地位に就いては夙にジュヴォンス、マシーナル等に依つて認められる所であり、茲に多言を費す必要は無い。而して利用に就いてのデュブユイの所説が語られる場合に常に引用されるのは右に掲げた(4)(5)の二論文である。思ふに一は利用一般に就いて、他は特にデュブユイが注目したる通行税に就いて、共に最も明に其の獨創的見解を語るが故であらう。

今茲に譯出するは前者即、「公共的勞務の利用測定に就いて」の一篇である。これは先に拙稿「消費者餘剰の觀念に就いて」(商學研究第三卷第三號)を草するに當り幸にも商大カール・メンガー文庫に見出したものである。筆者が佛蘭西語に未熟なるにも拘はず敢て其の翻譯を試みるは一に其の所論が價格と利用との關係を説くものとして今日尙充分の注意に値する事を信ずるが故に外ならぬ。

原文は、それが經濟學の専門雜誌に掲げられざる爲か、極めて碎けた調子で書かれて居る。譯筆が之を傷けなければ幸である。

立法者は或る種の勞務が公共的に有用であると云はれる爲に必要な條件を規定して居る、併し政治經濟は未だ會つて是等の勞務が眞に有用なる爲に満すべき條件を明に定義した事が無い、少く共此の題目に就いて述べられたる觀念は吾々には漠然たる、不完全なる、又屢々不正確なるものに見える。併し乍ら此の後の問題(譯者註經濟學に於て定義する事)は前者(譯者註法律で規定する事)よりも遙に重大である。如何に複雑なる調査も法律も

又命令も、眞に有用ならざる道路、鐵道、運河を有用とする事は出来ないであらう。云はゞ法律は單に政治經濟に依つて證明せられた事實を確認するに止まるものである。此の證明は如何にして爲すべきか。其の證明は如何なる論據、如何なる定理に基くか。一口に云へば公共的利用は如何にして側定せられるべきか、これ本章に於ける吾々の目的である。(1)

(1) 此の論文は著者が近く公にせんとする *Economie Politique appliquée aux travaux publics* と題する書物の抜粋である。

(譯者註、右の書物は遂に公にせられなかつた。尙 *Nouveaux Dictionnaire* に於て M. Delannoy の云ふ所に依ればデ

ブイは同種の問題を取扱つた論文に就いては等しく如上の斷り書きを附して居る様である。)

利用と其の側定とは云はゞ政治經濟の基礎である、従つて人は是等を嚴格に定義する事に没頭して來た。吾々は是等の定義に公共的利用の夫れを結び付け得るか否かを吟味しやう。

ジェー・ペー・セイは云ふ。「政治經濟に於て利用とは物が何等かの方法に於て人に役立ち得る能力である。

宮廷服の如く最も不利用なる、又最も不便なる物でも、其の使用が、如何なる意味に於けるかを問はず人をして夫れに價格を附せしむるに足るならば茲に所謂利用を有する。

此の價格は其の物が人の判斷に於て有する利用の測度であり、人が其の消費から得る満足の測度である。蓋し若し彼がその價格に於て更に大なる満足を與ふべき利用を獲得し得るならば、彼は此の利用を消費する事を努めないであらう。

斯く解せられたる利用は生産物に對して爲される需要の基礎であり、從つて又其の價値の基本である。併し此の價値は生産費以上を示すことはない、何となれば生産費以上に於ては其の生産物を欲する人にとつては之を造ることが利益であるから、而も又此の費用に於ては總ての企業者は自ら其の任に當る事を適當とする故にその人が自ら生産する必要に迫られる事は決して無いであらう。」(抄録)

若し絶體的に此の定義を受け入れ且之を一般化する時は、異なる體様に於て理解すべき數多の物の利用測定に於て大なる誤りに導かれるであらう。次に例示して見やう。

最も優秀な技師が國道並に縣道の利用幾何なりやと尋ねられたとする、而して、社會がその行はれる運送に對して支拂ふ價格は毎年五〇〇ミليونであると云ふ事實から出發して、之れにセイの原理を應用して彼等は曰く社會は此の輸送に對して五〇〇ミليونを支拂ふ事に同意するが故に、その利用は五〇〇ミليونである、若し等量の満足が無いならば此の價格は伴はれないであらう、故に五〇〇ミليونは此の利用の測度である、と。この推理の誤を知るには一瞬の反省にして足りる。實際運送の方法なり道路なり車輛なりに何等かの改良が爲されて、其の結果生産費が半分に減じ、社會が會て五〇〇ミليونを支拂つて居た勞務が今や實際は二五〇ミليونで爲される事となつたと想像せよ。吾々は、いとも高く位する法則の要求するが如く道路の利用は半分になつたと結論すべきであるか。否、反對に道路の利用は減少する所か、二五〇ミليونだけ増加したと云ふ事は明白では無いか。

若し社會が道路の爲す勞務に對して五〇〇ミリオンを支拂ふとしても、是れは其の利用が少くとも五〇〇ミリオンなる事を示すに過ぎない。併しそれは百倍も千倍も大いかも知れない、この點が諸君の着過せられる所である。若し諸君がこの數字を測度とし、正確なる大きさを知らざる量に對する最低限度として採らないならば、諸君は、恰も暗黒裡に塀の高さを測らんとして、腕を伸しても頂上に達しない所から、この塀は二米突である、何となれば若し二米突無いならば自分の手で超す事が出来るであらうからと云ふ人々と同様に行動するものである。若し諸君がこの塀は少くとも二米突あると云ふならば吾々は同意する、併し更に進んでこれが其の測度であると云ふ時、吾々にはや同意しないのである。夜が明けて梯子を持つて來れば二米突と理解された塀は實は五〇米突もある事が分るであらう。

吾々が樹てやうとする區別は非常に微妙な觀察に基くものであるから、吾々はこの最初の觀點に止まつて充分多數の引用と例證とを以つて之を明にしたいと思ふ。

ジエ・ペー・セイは云ふ、「價格が物の價値であり、又價値は人が其の物に與へる利用の測度であることから恣に價格を示す事に依つて其の利用を得たりとするが如き不合理なる結論を導き出してはならない。交換價値又は價格が人の一物に認める利用の指標であるとは、唯彼等の集る市場がこの利用に無關係なる何の影響にも服せずと云ふ程の意味である。

實際一人が他人に或る生産物を賣るとはこの生産物中の利用を賣る事である。買手は唯其の利用の爲にのみ、

其の爲し得る使用の爲にのみ其の物を買ふのである。若し或る原因に依つて買手が、この利用の彼に對する値打以上に支拂ねばならぬとすれば、彼は存在せざる、従つて彼に提供せられざる價值を支拂ふのである。

これは其の筋がある商人階級に對して或る種の商業を行ふ獨占の特權を與へる場合に起る、例へば印度の商品の如きが夫れである。印度の商品の價格は其の利用、其の内の價值が如何に大なるにもせよ尙非常に高い。この價格の超過部分は消費者の懐から特權的商人の懐に移される金である。而して一方を富ます事は丁度同額丈他方を貧乏にする事に依つてのみ爲される。

同様に政府が葡萄酒に課税し爲に從來一瓶一〇スウ（スウは吾が一錢九厘）であつたものが一五スウに賣られる事となつたとすれば、これは各瓶に就いて五スウ宛を生産者或は消費者の手から收稅吏の手に移す事に外ならぬでは無いか。此の場合商品は貢獻を多少容易ならしめる手段に過ぎない、而して商品の現在價值は二つの要素から構成される。即第一には其の利用に基く實際の價值、第二には政府が其の製造、流通、消費に對して支拂はしめんと欲する課税の價值これである。」

課税が生産物の利用に寸毫と雖も加ふる事を得ないのは明である。けれども消費者の立場から見れば其の存在はこの生産物に生産費以上の利用がある事を確證するものであると云ふ事が出来る。何故にこの一瓶が一五スウに買はれるか。これは其を獲る者が少くとも等量の利用を認めるからである、蓋し課税の如何に拘はらず彼が夫れを買ふと買はざるとは全く自由なるが故に。課税に依つて彼が獲得に於て認める利用以上を支拂はしめる事は

國家の力の及ぶ所ではないのである。

吾々に従へば茲に實際の事情がある。葡萄酒を買はんとする多數の人々ある場合に彼等がこの品物を得る事に認める欲望は各人皆異なる。斯て富裕にして安樂なる人々は市場の現在價格にして止むを得ずんば假令三〇スウに於ても之を買ふ程の利用を認むべく、より富裕ならざる他の人々は一五スウを超ゆる事なく、より安樂ならざる者は一〇スウを超えず、貧窮なる人々は六スウに於て始めて買ひ、更に困難なる者は四スウに於てより買はないであらう。扱彼等は市場に於て葡萄酒の價格は一〇スウに過ぎないが、政府が五スウの課税を爲す爲に一五スウでなければ手に入れ得ない事を知つたとせよ。(2)

(2) 茲に課税の效果として葡萄酒の生産量が減少する爲には充分に長い時間の経過を必要とする。

然らばどうなるか。葡萄酒の獲得に對して一五スウ以上の價值を認むる者は之を買ひ、この獲得に認める重要な程度に従つて夫れ夫れ異なる大きさの利益を實現するであらう、總て葡萄酒を買つたであらう人々も若し彼等が一〇、一一、一二、一三、一四スウの價值より認めない場合には之を買ふ事は出来ない、彼等からこの消費を奪ふものは課税である、最後にこの獲得に對して一〇スウ以下の重要より認めない人々は之を買はないであらうし、又何れの場合にも買はなかつたであらう。故に利用が嚴格に一〇スウであり得るのは葡萄酒生産者又は賣手なる一群の人々に止まる、是等に於ては課税の如何に拘はらず、より大なる利用を引出す事は出来ない。買ふ人々に取つては利用は一五スウ以上であり、買はざる人々に取つては其れ以下である。

斯く事實を更に精査する時は、吾々は各消費物に就いて、各消費者に従つて異なる利用を認める事となる、これのみでは無い、各消費者は消費し得べき量に應じて自ら同一物に異なる利用を認めるものである。即一〇スウに於て百瓶を買ふべかりし人も二五スウに於ては五〇より買はない、更に二〇スウに於ては三〇より買はないであらう。これは一般的な事實であり、従つて公共的勞務に於ても起り來り、其の利用を測定するに際しては考慮に入れる事を要する、次に之を證明する爲に全く異なる例を取つて見やう。

ある高所に位する村に於て水を分配する、其の場合に水を獲得する事が非常に困難なる爲に、水は一日百立に就いて年五〇法の負擔が支拂はれる丈の價値があつたともせよ。然らば此の事情の下に於て消費せられる水の各百立は少くとも五〇法の利用を有する事は明である。一と度ポンプが設けられて、同量の水がもはや三〇法により價しないとする。此の場合にはどうなるか。先づ百立を消費して居た住民は其の消費を續けて、この第一の百立に於て二〇法の利益を見るであらう、併しこの價格の低落が其の住民の消費量を増加せしめる事は極めて自然である、依つて彼は二身的使用の爲に節約して使用する代りに、より緊急ならざる、より必至ならざる欲望に對して水を使用するであらう。其の欲望の満足は彼にとつて三〇法以上に當る、何となれば彼は其の水を得る爲に夫れ丈の犠牲を支拂ふからである、而も五〇法には價しない、蓋し此の價格に於ては彼はこの消費を差控えたからである。斯くて公共的ポンプに依て同一個人に供給せられる右の二つの百立に於て、一は五〇法以上の利用を有し他は三〇乃至五〇法の利用をもつ。ポンプが更に完備するか、或は單により大なる消費に依つて、價格が

二〇法に減ずるとすれば、其の結果は同一個人が毎日家を掃除する事が出来る爲に四百立を得んと欲するに至るべく、水を一〇法に於て與へるならば彼は之を庭に撒く爲に一〇百立を望むべく、五法に於ては池を設ける爲に二〇百立を要求し一法にては常に噴水を持つ爲に一〇〇百立を望むであらう、等々。若し諸君が此の事情に立ち、自ら公共的ポンプに依つてこの消費者に供せられる水の利用を問ふならば、それは百立に就いて五〇法であるとは云はれない、蓋しこれはポンプ設置以前に彼が消費したる水の價格なるが故に。この數字を其の利用の測定とするものは唯一の百立あるのみである。第二の百立に就いては夫れは五〇法と三〇法との間にある、次の二つは二〇法と三〇法との間、他の六つは一〇法と二〇法との間、次の一〇に就いては五法と一〇法との間、更に次の八〇に就いては、夫れは一法と五法との間にある。諸君はこの事實の證明を欲するか。水の價格をあげよ。百立が一法なる場合に、四法の課税は直に、一〇〇百立の消費量を二〇百立に減ずるであらう、九法の課税は二〇法を一〇に十九法の課税は一〇を四に順次斯の如くして五〇法の價格に於ては、諸君は唯一百立の消費より持たないであらう。更に進んで行けば、諸君は諸君の知らざるこの最終の百立の利用を見出すであらう。

斯の如く總ての消費せられるものは單に各消費者に對してのみならず、又其の用ひらるゝ欲望満足の各に對して、異なる利用を持つものであり、これは更に吾々が公共的利用の測定を爲す場合に於て各瞬間に認める所である。併し夫れに進むに先立つて吾々が、今直ちに提議せんとする方法の根底を形造るこの一般的觀念に於て、更に主張する所あるを許され度い。

先づ、吾々が利用なる言葉に全く新しき意味を與へ之より出立して一見極めて複雑なる評價方法に進むが故に吾々を目して、利用なる言葉を其の科學的定義から引離すものであると爲す論者の非難を排斥したいと思ふ。吾々は吾々の提議する區別は一物に二つの價值を認めたスミスの中に見出される事を指摘すれば充分である、即吾々の理解する如き利用であり、生産物を消費せんとする者に對する價值なる使用價值、及び同一物が之を賣らんと欲する人に對して有する利用なる交換價值が之である。スミスを評したマカロツクは此の重要な區別を一つのノートの中に於て明にする、曰く、

「價值と云ふ言葉は屢々唯一一物の交換價格、或は獨り勞働に依つてのみ得られる他の物と交換せられ得る能力を示す爲のみならず、又その利用或は、其れが吾々の欲望を満足せしむる性質又は、吾々の幸福、享樂に貢獻する所の性質を示す爲に用ひられて居る。併し燕麥が吾々の飢を癒し水が渴を醫する能力が證明する如く、明に商品の利用は交換の能力と其の性質を異にする。スミスは此の區別を見出し商品の利用、或は彼に従へば使用價值又は自然的價值を、交換價值から區別する事の重要を示した。本質的にかくも異なる性質を混同する事は、明に最も不合理なる結論に踏み入ることである。價值の如き重要な言葉の意味を誤解しない爲には、之を交換價值に限つて用ひ、利用なる言葉は品物が有する欲望満足の可能性、能力、或は吾々の欲望に應ずる可能、能力を説明する爲に保存した方がいいであらう。」

故に此の區別の重要を指摘したのは吾々が最初では無い、而して道路の利用の評價方法に於て示した例は、此

の區別なしには重大なる誤に導かるべしと云ふマカロツクの言が人を欺かざる事を證明する。

この新なる定義の下に於ける利用の測定が多少複雑なる事を正當視する爲には、吾々は政治經濟は便宜の科學に非ずして夫れが確立する限りの積極的事實の科學である事を云はんと欲するのみである。事實は社會が供給する通りに受取る事を要する。複雑なれども正しきものを排斥する爲に簡單なれども不正確なるものを許容する事は出来ない。加之ジュー・ペー・セイの定理は眞に簡單なるものであらうか。一五スウに賣られる一瓶の中には生産費が一〇スウ税金が五スウある故に其の利用は單に一〇スウに認められるとするならば、巴里に於て五〇法に賣られる一疋の茶の利用は如何にして測られるか。支那に栽培せられ、幾多の税關を通して賣られ、三四の國旗の下に運送せられて商人の店に到達するこの品物に就いて如何にして課税を控除し得るか。更にこの控除——それはこの道の商業に充分長く學ぶ事を必要とする——を爲したる後には、茶の生産が是等の課税の分配に於て得たる所を附加するのが正當ではないか。蓋し若し其の購買、輸送を保護する爲に國家が巡洋艦隊を維持するならば、又若し國家が是等の遠國に於て自己を代表する爲の代理機關、領事、大使を有するならば、茲に其の生産費に附加すべき眞の費用が存するからである。印度に於ける軍隊の費用は必然的に其の販賣する砂糖の生産費に附加さるべきものである。同様に或る生産を特殊の方法で保護する國家の費用も其の純價格の一部をなすものである、これは國家が或者に奨励金を與へる場合に明である。故にこの計算方法は一見簡單ではあるが、それにも拘はらず充分の困難を有する事が認められるであらう。

而も商業に於ては斯くも可變的・可動的なる利用の價値はよく知られて居り、又長い間用ひられて居る。自由競争の蔭にある一切の投機は、それが生産の秘密に依ると又は賣手の獨占利益を確保する一切の他の事情に依るとを問はず之を其の基礎として居るのである。非常に有用なものがそれを獨占する人にとつては僅に一法の生産費より要しない場合に、其の生産者はこの價値に於ても買手がある事を充分知る時は之に一〇〇法の價値を定めるであらうか。誰もしない、蓋し彼は亦この價格に於ては買手を例へば百より得る能はず、従つて彼に與へられる利益は九九〇〇法に過ぎない事、及び價格を二〇法に引下げるとは彼は千人の買手を得べく、之は彼に1000、×19=19000の利益を與へる事を知れるが故である。之のみでは無い。彼はこの千人の顧客の中、多數は尙高き價格二五、三〇、五〇、八〇、一〇〇法を與ふる事に同意すべく、是等の買手は事實に依つて五、一〇、三〇、六〇、八〇法の大きいさの利益を實現して居る事を知る故に、彼は無限の商略を以て各買手をして彼が自己のものとして居る利益の能ふ限り大なる部分を支拂はしめんとする。同一の商品が異なる店に於て種々の形に變裝して、富者に、安樂なる人々に又貧者に、非常に異なる價格で賣られる事は實際屢々存在する。同一の倉庫から出て居りレットルの外には實際の差が無いにも拘はらず、商品には上等、極上等、最上等、特別上等、等があり、それが非常に異なる價格で賣られて行く。何故に。これ同一品が消費者に従つて極めて異なる利用の價値を有するが爲である。若し平均的なる一價格よりないならば、この生産物に其の價格以下の利用を附するが爲に、之を買はざる總ての人々は損失を蒙るべく、又賣手にとつても多くの買手をして彼が提供する利用の極少部分より支拂は

しめないと云ふ損失がある。神は吾々が商業の一切の偽を是認せんとする事を禁ずる、併し乍ら之を研究する事は善い事である、蓋し夫等は人心の正確なる智識に基き、多くの場合に於て其の中には最初人が見逃す所の數多の正義を見出すのみならず、更に則るべき模範さへも發見することあるが故である。吾々は後に通行税と題する論文に於て此の點を再説するであらう。

〔譯者註〕此の論文は一八四九年の同誌に掲げられて居る。小引に於て掲げた *De l'influence des péages sur l'utilité des voies de communication* がそれである。

蓋し生産費が一は大多數の場合に於て一度は極めて高價なるもの、他は各目的物に就いて極めて輕少の出費に止まるものなる二部分から成立する、あらゆる物の賣價の基礎は、同一物の可變的利用の考察に外ならざるが故である。即一度橋が設けられて國家が通行税を設定する場合には國家はもはや其の生産費を顧みない、國家は橋板を最も損する非常に重い四輪馬車に彈條附馬車スネよりも輕く課税するのである。何故に同一の勞務に對して二つの價格があるか。蓋し貧者は橋を通行する便利に對して富者と等しき價格を附し得ないからである、税を上げれば通行を阻止するばかりである。運河に於ても鐵道に於ても料率表は商品及び乗客の種類に従つて區別され、費用が殆んど同一であるにも拘はらず、彼等に甚だ異なる價格を附する。前以て定めた料率に依つて立法者は自ら種々の人々に對して爲される同一の勞務の中に、利用の大小を確證するかに見ゆる一定の特徴を定義するのである。商業に於て直接買手に接する商人はこれ以上に出づる、彼は愛嬌、信用、の陷阱を設ける、併し其の目的は

常に同一である、即それは常に買手をして彼の供する勞務に對し其の費用のみならず、買手が之を評價する所をも支拂はしめんとするのである。故に若し各消費物に對するこの可變的利用を知らなければ一切の商略は存在せず、假令その中に欺瞞があらうとも、それは行はれないであらう、蓋し人は生産費に關しての外には決して欺かれないからである。買手は彼がそれに認むる利用以上に生産物に支拂ふものでは無い。

要するに政治經濟は一物の利用測度としては、各消費者が自ら之を得る爲に爲さんと欲する最大の犠牲を採用すべきである。吾々は政治經濟と云つた、蓋しこれは尙事物が人間の欲望を満足する能力の正確なる測定ではなからである。若し一疋のパンを得る爲に百萬を與へる事を承諾する富者と、何も與へるものが無い所から之を得る爲に生命を賭する貧者とは何れが最も餓えたるものであるかと云ふ時は非常な混雜に陥るであらう、併し政治經濟は其の考察を富に限り意思の力は金錢に表はされたる限りに於て考へるものである。パンは之を買ふ事の出来る人々の爲にのみ作られる、交換に於て與ふべき價値を有しない者に之を供給する心配は擧げて社會經濟に委ねるのである。

吾々が考察せんとする利用とは、自然に無償で得られるものから最も困難なる勞働に依つて得られるものに至る、吾々の欲望を満足するあらゆる物の絶體的利用である。或る生産物の消費に際して余は夫れに就いて三〇法だけ出さうと云ふ人あらば、其の人が單なる獲得の手續のみで夫れを得やうとも、又二〇法で買はうとも、其の生産物は彼にとつて三〇法の利用を有するのである。但この消費者にとつて右の二つの場合では相對的利用は著

しく異なる。第一の場合に於ては夫れは實際絶體的利用三〇法である、併し第二の場合に於ては絶體的利用と購買價格との差一〇法にすぎない。實際後の場合には彼に取つて三〇法の價ありとせられる欲望が満足される代りに、彼は他の欲望に就いて二〇法を奪はねばならない。故に彼はこの二つの額の差のみより利益しないのである。同一欲望の満足を二九、二八、或は二一法により評價しない消費者に對しては相對的利用は九、八、或は一法に過ぎないのであらう。夫れを二〇法により評價しない人々に對しては此の利用は零であり従つて之が獲得に際して迷ふ事となる。若し其の満足を一九、一八、一七法により評價せざる人々が之を二〇法に買ふ事を強制される時には、利用の損失を來すであらう。最後に其の品物が二〇法かかるのに、何人も一五法以上與ふる事を欲しない時には、利用の生産は無く、賣手にとつては利用の損失を生じ生産は杜絶する。茲に於て、屢々忘れられるが故に屢々繰返す所の金言が生ずる、人が支拂はんと欲する所のみが眞の利用であると。一般に或る生産物の相對的又は決定的利用は、其の表現として、獲得者が之を得る爲に爲さんと欲する犠牲と、交換に於て與へる事を余儀なくせられる獲得價格との差を有する事を見る。(3)

(3)工業及製造業は、生産費の消費が作出せられる利用と相殺する故に、利用を生産する事なしと云ふフィジオクラットの誤謬は、其基礎を生産費に基く、誤れる利用の測定にのみ置くものである。若し諸君がブルゴンニユの一箱を巴里へ運送する事が其の實際かつた費用、且諸君が運送屋に支拂つた所の一五法の利用よりないと云ふならば、この一五法は運送屋及び馬の消費を示すものなる故に、諸君は運送屋は利用を生産したもので無いと結論する権利がある。併し若し諸君がこのブルゴンニユの葡萄酒の買手の間には之を得る爲に必要なならば其の價格以上に一五法よりは遙に多くを支拂ふ人々があ

る事を認めるならば、諸君は従つて此の運送屋、並に用ひられた彼の車及び道路が非常に高い利用を生産し得た事が分るであらう。

以上に依つて總て、購買價格を上げるものは従つて利用を減ずるものであり、之を下げるものは同様に利用を増大するものである。

例へば或る品物の賣價が殆んど生産費に等しく二〇法であると想像する。然らば此の生産物の利用（譯者註、絶體的利用）は、消費せられる事情如何に従つて次の如き價をもつであらう。

三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 一二 一一 一〇

故に其の利用（譯者註、相對的利用）は各事情に應じて

一〇 九八 七六 五四 三二 一一 〇

である。若し五法の課税ありとすれば、同様の事情の下に一〇 九八 七六 五法の利用を認める總ての消費者に對して、此の生産物の利用は五法の減少を來し、彼等は此の消費に於てもはや五四 三二 一一 〇の利用より認めないであらう。損失は總ての人々に均等である。又此の消費に於て四 三二 一一 〇の利用より認めず、従つて課税の爲にもはや消費せざる人々は丁度彼が從來認めて居た、利用丈を失ふ、故に其の損失は各人に於て異なり、夫れ夫れ四 三二 一一 〇法に等しい。課税は斯くて單に之を支拂ふものに影響するのみならず又課税が無ければ消費すべかりし人々にも其の効果を及ぼす。この考察に就いては後段に於て再説しやう。

今度は逆の假設を作つて見る、生産費従つて獲得費が五法減少し、會て二〇法のもの、今一五法より掛らないとする。然らば二〇法の價格に於て

一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 法

の利用を得たりし人々は同様の事情の下に

一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六 法

の利用を得べきは明である。この減少の効果は明に彼等に對して、更に他の欲望を満足すべき五法を與へる事となる。而も之に止まらない。價格の減少した品物は從前其の利用を

二〇 一九 一八 一七 一六 一五 法

により評價せず、この利用が品物の賣價より低かりしが爲に之を買はざりし人々の到達圏内に入り來る、故に之の品物は茲に新なる消費者を得る事となる。其の人々にとつて生産物の利用は幾何であるか、常に絶體的利用と購買價格との差、即

五 四 三 二 一 法

である。價格の低落は故に各新消費に對して各と異なる利用を與へる。

一般に一切の價格の騰落は前後の兩状態を通じて止まる消費者に對しては、此の價格の變化と同量の利用の減少、増加を齎し、價格の騰貴に依つて消え去り或は下落に依つて生れ來る消費者に對しては、失はれたる或は得

られたる利用は夫れ夫れ、彼等が其の生産物に認めたる従前の或は新しき相對的利用に等しい。

此の定理は暗黙には總ての種類の利用測定に含まれる所であり、従つて公共的利用の測定に當つても何等他と異なる所はない。吾々の今從事するのは公共的利用の測定であるが而も暫く止まつて吾々が此の研究の先覺者と如何なる點に於て異同するかを見るべき義務あることを感ずる。

「ジェー・ペー・セイは云ふ。

「道路及び運河は、其等が賢明に經濟的に建設せられた國に於てさへ非常に金のかかる設備であるにも拘はらず恐らく大多數の場合に其社會に爲す勞務は、確にそれが社會に惹き起す年々の費用を遙に超過して居るであらう。之を説明するには余が價値の生産に就いて、それは一に商業的産業、一の場所から他へ働らく運送に基くものであると述べたこと、並に生産費に於ての節約は悉く消費者にとつての利益であると云ふ原則に歸らねばならぬ、之に就いて若し人が道路は無いものと想像してこの道路を年々通過する總ての商品あらゆる食糧の運送費を評價し、斯くて得べき莫大なる運送費用と實際費す所とを比較するならば、其の差は、是等の商品食糧の消費者が得る大なる利益を與へるであらう、これ國民の爲に眞正完全なる利益である。

若し道路が無ければ人が茲に主張する如き莫大なる運送費は無いであらう、何となれば其の場合には大部分の運送は起らないし、人は運送される物なしに済みますであらうからと云ふのは愚である。人が其の費用を出し得ない爲に其の物なしに済みますと云ふのは富裕でないからである。各消費者は原價が高すぎて消費し得ない生産物に

相對しては無限に貧乏である、而して彼の富は此の生産物の價値が減少するだけ、この生産物に相對的に増大す
る。」

公共的利用の右の評價方法は最も一般的に採用せられる所である。夫れは完全に生産費に基く利用の測定を離れて居る事を注意せよ。反對に茲では實際さうあるべき様に、生産費の減少を用ひて利用が測定されて居る。故に二つの定義の中には吾々が利用を考へた方法には見なかつた一種の矛盾が存在する。最後に苦し吾々の改作した右の一般的原理が根本に於て正しいとしても、夫れは形式に於て又詳細に於て斯くも不完全なるものであり、全然誤れる結果により外導き得ないものである。

吾々は之を、ナヴィエ氏 M. Navier がセイの定理を文字通りに適用して同一の問題を取扱つて居る *Annales des ponts et chaussées* の一論文に於ける例をとつて觀察しやう。(1832 1er semestre) 尙此の計算方法は一般に用ひられて居る所であり、若し吾々が他の例を欲するならば敢て之無しとはしないのである。

「彼は云ふ、政府は納税者から集めた基金に依つて或鐵道工事に消費した。尙之の維持費に應ずる爲には更に同一の財源を取る事を要する。政府は其の既になせる消費及び課せられたる新費用を償還する目的を以て通行税を課した。此の作用が納税者の重荷にならない爲には年々輸送に依つて得られる經濟が、少くとも投資及維持費の爲に起される資本の利子に等しきを要することは何等の困難なく認められるであらう、この觀察は國家が利益を以て其の企業を行ひ得る爲に噸數に一定の限度を設ける事となる。」

吾々は之を更に明ならしめる爲に是等の觀察を運河の建設に應用して見やう、かくて次の如き前提を採る。

大航海運河一里(Hieron 2 $\frac{1}{2}$ miles)を建設するに必要な費用は五九〇・〇〇〇法之に管理費並に利子の損失を入れると七〇〇・〇〇〇法、其の年利三五・〇〇〇法となる。

年々の維持費、監督行政費が同運河一里に就て一〇・〇〇〇法、

商品一噸の運送の爲に商業の支拂ふ一里當りの費用が、道路に於ては一法運河に於ては〇・一三法(通行税を含まず)故に後の運送方法に依る經濟は〇・八七法、

此の前提の下に於ては、年々運河に依つて輸送せられる商品の量が $\frac{45000}{0.87}$ 或は五二・〇〇〇噸に等しきを得るならば國家は何等の損失なくあらゆる方向に運河を設ける事が出来る。其の噸數が夫れ以上であれば國家は年々〇・八七法に五二・〇〇〇を超過する噸數を乗じた積に等しき金額を利益するであらう。」

併し乍ら、ジュー・ペー・セイの言葉を其儘眞似たる此の計算の誤りは運河に依つて運送せられる全噸數に、正確には其の中の極く小部分により當らない利用の數字を宛嵌た事にある。運河の利用は斯くして非常な割合に於て誇張されて居るのである。斯くて人は全然虚妄の結論に導かれ、それは公共的運命にとつて最も重大なる結果を齎し得る事となる。

先づ此の利用の測定に於ては何故に比較の手段たるものが道路であるかを理解する事が出来ない、若し航海の危険多き、従つて費用のかかる河川に平行して人が側面運河を設けたとすれば、或數の商品に對しては、其の齎

す利用を知る爲に運河の價格が比較さるべきは此の河川の價格なる事は明白ではないか。又鐵道が設けられる時に比較の手段となるものは此の運河であるか。或は道路であるか。最後に道路が設けられる時はどうすればいいか。

吾々の方法は是等一切の困難に應へる。吾々は如上のものとの比較を保ちつゝ之を一系列の例に依つて説明しよう。

或る村が家屋の建築並に修繕の爲に年々、一〇、〇〇〇噸の石を消費し、各一噸に就いて二〇法宛支拂はれて居たとする。これは次に内譯を與へる様な種々の生産費の合計である。人が或る新しき交通方法を作る、夫れは
お望ならば運河でもいいが又全く別なものでも差支ない、(4)

(4) 吾々は尙或労働の用具とも或る機械とも云ふ事が出来る。

其の結果は石一噸の生産費を二〇法から一五法に減する事となる。此の場合に於て吾々は云ふ、運河の利用は一噸の價格の減少したる五法に然らざる場合にも消費せられたる一〇・〇〇〇噸を乗じて五〇・〇〇〇法であらうと。茲に諸君も見らる如く吾々のはもはや新舊兩交通方法の一切の運送費を比較しない、然らずして生産費を比較するのである。これが二つの方法の間に重大なる一區別を劃するのである、かくて右の例に於ては石の運送價格は新方法に依る方が舊方法に於けるよりも遙に高い事が起り得る。蓋し新方法の方が長いが、それは他の事情に依つて補はれて居るといふことがあり得るからである。仍で元の價格二〇法の要素は次の如しと想像する、

採掘・石切場の補償……………16 法

短距離の運送(例へば四里)……………4 法

舊生産費合計……………20 法

然るに運河はその道筋に採掘の容易な石山に出會した、それは村から非常に遠く距つて居る爲に今迄採掘されなかつたか、或は採掘されても其の生産物が此村に迄齎されなかつたものである、それは實際次の如き價格を與へる。

採掘……………2 法

長距離の運送(一〇〇里)……………13 法

實際の生産費合計……………16 法

依つて人は元の運送が單に四法の費用に過ぎないのに、新しい方は一三法かかる事を見るであらう。斯くて若しジュー・ペー・セイの言葉に止まつて(5)單に運送費用のみを比較すれば運河は九法の利用を失つた事を認めるであらう。

(5)吾々はセイの言葉と云ふ、蓋しセイが他の點に於て發展せしめた原理に關しては、此の經濟學者の比較する所は生産費であつて運送費ではない事を認める故である。

若し又ナヴィエ氏の方法を採用する時は人は次の如く云ふであらう、即一噸の石は運河に於ては百里を通つて一三法の運賃に止まるが、道路に於ては一〇〇法もかかるであらう、故に運河の利用は一噸に就いて八七法であス

と。然るに實際は其の一九分の一なる五法に過ぎないのである。

吾々は石を更に遠い所にあるものと想像する事が出来る。何となれば若し運河がそれを二〇法以下で供給するならばそれは舊者に代はるからである。斯くて運送に一七法を費すべきが故に價格が一九法である時には運河の利用は一法に過ぎない、然るにナヴィエ氏の方法に依れば尙一一三法以上を與へるであらう。(石が通過すべかりし里數に〇・八七法を乗じて)

これは人が看過し得べき特殊の場合では無い、事物の實情は概ね斯うである。實際一消費中心が如何にして給養されて居るかを考へる時は、それは其の周圍に一定面積を形成する一列の發散射線に依つて養はれて居る事を知る。其の或る方向に於て人が更に經濟的なる新交通方法を作る時には、それは單に之の平行射線に依つて供給せられる商品に就いて自ら代つて其の中心を養ふのみならず、更に發散射線とも競争する事となる、蓋しその價格は消費中心を養ふ原因を遙に遠方に求める事を許すが故である。斯くて運河が道路に沿ふて走る場合には他の生産費が等しき限り、運河は道路の五六倍も遠くに行く事が出来る、又若し何かの事情に依つて運河が或生産の費用を、より少くなし得る事が許されるならば、夫れは二〇倍も一〇〇倍も遠くに行くであらう。故に人は一般に非常に經濟的な或交通方法の設置はその結果として給養の原因を變更するものであり、従つて平行な運河と道路との運送價格の比較は大多數の生産物に就いて必然的に虚妄なる事を知る。これ亦吾々が述べ來つた考察に訴へらるべきことである。

斯くて一交通手段の目的は運送費を減少する事では無くて反つて生産費を減少する事に存すべきである。(6)

(6) 吾々は生産費を以て或る目的物を消費に適せしむるに要する所のものと理解する。

或る生産物が他の路に於ては一〇籽の所にある場合に、人は合理的に四〇籽の路を作つて之を其の端に求める事が出来る。古き消費に代れる新しき物が生産する利用は、其の價格の差に從來消費せられた量を乗じたものに等し。

吾々は從來消費された量と云つた、蓋しこれは重要な制限であつて、之無しには重大なる誤謬に陥るべきが故である。

石に就ての運河の効果は其の生産費を五法減少し、其の結果として從來用ひられた所の一〇・〇〇〇噸に就いて五〇・〇〇〇法の利用を得たのであるが、其の効果は茲に止まらない。價格の下落は必然的に石其の物の新しき使用を呼び起すべく、多くの建築に於ては石が練瓦や木に代り、又今迄石でなかつた道路も石で敷かれるであらう、等々。仍で一〇・〇〇〇噸であつた消費は恐らく三〇・〇〇〇噸となる。斯くて運河の前には二〇法で一〇・〇〇〇噸を消費し運河の後には人は一五法で三〇・〇〇〇噸を消費する。この新しき二〇・〇〇〇噸に依つて生産される利用は以前の二〇・〇〇〇噸と同じく五法であらうか。吾々が一般に利用に就いて述べた所の考察はその然る能はざる事を説明する。新なる買手は二〇法の價格に於ては買はなかつた故に、或は彼等は二〇法の利用を石の消費に認めざる故に相對的利用を構成する右の大きいさの利益を實現しないのである。彼等は如何にも一五法

に於ては買ふ、然し彼等の中には此の材料の消費に際して其の價格に僅か一法の騰貴があれば消費を中止する程の低き價格より認めて居ないものがある。其の人々に取つては相對的利用、相對的利益は一法にも及ばない。或者は亦僅か二法の騰貴に依つて手を引く、その人々に取つて相對的利用は一乃至二法である。一口に云へば、消費される各噸の利用を知るには各消費者が自ら消費せざるに至るべき價格に依つて、彼の欲望の強度を知らしめられる事が必要であらう。扱其の計算は非常に容易に出来る。生産費一五法なる此の石に一法の税が課せられた爲に運河に於て七・〇〇〇噸の石が取去られると想像するならば、その運送の利用は一法であるとして大過ない。二法の新税に依つて五・〇〇〇噸が消失する、然らば茲に其の最大利用が二法なりと評價し得られる五・〇〇〇噸がある。斯く課税に依つて消失する運送量を合計すれば、吾々は運河に依つて新に運送される二〇・〇〇〇噸に就いては次の如き結果に到達する。(7)

(7) 吾々は説明の便宜の爲に微分に代ふるに差の計算を以てした。微分の計算法の初步智識を有する人々は次で如何にすれば近似値が正確なるものに置換えられ得るかを知らるであらう。本章末に於て正確な公式を参照せよ。

單純に生産費の減少よりすれば運河の興へたるべき五法に代えて茲には二・三〇法の平均的利用があるであらう。若し人が右の四六・〇〇〇法の利用に先の消費一〇・〇〇〇噸に應ずる利用五〇・〇〇〇法を加へる時は、且其れは五法の課税と共に消去るが故に同一定理の下に理解し得るとするならば、人は此の種の運河の相對的利用の合計として九六・〇〇〇法の數字を得る。ナヴィエ氏の定理は $30,000 \times 87 \parallel 2610,000$ 法の利用を興へるであらう。一

7.000	1	7.000
5.000	2	10.000
4.000	3	12.000
3.000	4	12.000
1.000	5	5.000
20.000		46.000

の運河を企てる前には、その利用が是等二つの量の何れなりやを知る必要は無
いであらうか。

扱吾々は今迄従前の消費に現はれて居た生産物のみを取扱つて來た。併し今
日歐洲國民が達して居る文明の程度に於ては、人が常時に有する、質的欲望に
加へて、地方、氣候、習慣に従つて異なる所の無限の新欲望を生じ、同時に人
間の才智が同一欲望の満足に役立つ生産物を變化させて來るに至つた。仍で運
河の如く非常に安價なる或は鐵道の如く非常に速なる新交通手段の開始は、其
が通過する國に於て全然新しい産物を出現させる。茲には瓦が村の總家屋の葺
葺に代らんとする、更に進んでは反對に瓦に代るべきものは石盤である、富者
は悪い葡萄酒より出來ない國に於ても上等の葡萄酒を手に入るべく、水を呑ん
で居た貧者はビールにありつく事が出來よう、鹽漬にして居た海魚は鮮魚とし
て得られるべく、石灰には石膏が代へられ、人は煉瓦の代りに石を或は石の代
りに煉瓦を用ふるであらう。新交通方法以前には使用されなかつた是等新商品
の利用は如何にして測定すべきであるか。

吾々は既にジェー・ペー・セイが此の抗議に答へて居る事を見た、彼は曰く「各

消費者は元價が高きに過ぎて消費し得ない生産物に相對しては無限に貧乏である、而して此の生産物の價値が減少する度合に應じて之に相對的なる彼の富は増大する。」と、此の有名なる經濟學者はかゝる生産物の利用を考察する際にも他の物と同様に、道路が未だ作られざる場合の運送と夫れが作られた場合に要する費用との差を以て——如何に其の差が大ならうとも——評價する事を望むのである。

茲に評價の誇大さは吾々に一目瞭然である。新道路又は新運河以前には知られざりしこの石盤は今一千枚に付いて二〇法であるが、此の運河なしには恐らく二〇〇、三〇〇、一〇〇〇法もしたであらう、何となれば運河の通路にあたれる石盤採掘所は運河以前には恐らく採掘の手段が無かつたであらうし、若し人が強いて其の産物を取る事を欲すれば之を驢馬に積んで運ぶ事を要したであらう故に。石盤が一〇〇〇法もしたであらうから何人も之無しで濟ませて居た、然るに今日は二〇法であるから總ての人が使用すると云ふ事實から、人は運河に依つて爲される勞務の利用は石盤一千枚に付いて九八〇法であると云ふであらうか。其の逆を證明する事は容易である。蓋し千枚に付いて一〇法の課税は必ず石盤の消費量を半分に減する事を得るであらう、瓦は先に捨てられながら消費者の半分は瓦に還るであらう、若し斯くの如くんば諸君は石盤の半分の輸送に就いては、其の利用は一千枚に付いて一〇法に達しないと云ふ事が出来る、次に若し二〇法の課税が完全に石盤を市場から驅逐するならば、諸君はこの第二の半分について利用は二〇法に及ばないと云ひ得る。故に夫れが要すべかりし價格に基く九八〇法の利用は全く想像的なものである、人が支拂ふ事に同意する所以外に利用はない。これ政治經濟の金言

であり、その一切の問題に於て常に精神として有せらるべきものである。若し諸君が或る生産物に一〇〇〇法の勞働を費したとしても一〇〇法の買手より見出さない場合には諸君は九〇〇法の利用を失つたのである。

新生産物の運送に就いても舊消費に増加のあつた場合と同じく、利用は、生産費の減少を測度とせずして新方に於ける運送を阻止する爲に用ひらるべき最も低き課税を測度とすべきである。後の測度は元々運送せられたる生産物に對してさへも適用せられ得る、蓋し其等に對しては忍ぶ事の出来る課税は明に生産費の減少と相等しきが故である、尙それは交通手段に限られるものではない、勞働の用具や其の生産物の一切に適用せられ得る。斯くて一般に一生産物の利用は其の測度として消費を阻止する所の課税を有すると云ふ事が出来る。多數の生産物の利用、或は數多の生産物を産出する一機械の利用を見出す爲には、其の各個の利用の總和を作れば足りる、最も簡單なる方法は次の如し。

人が一般的利用を知らんと欲する同類の全生産物の上に少しづつ高まり行く課税が落つると想像せよ。各騰貴毎に一定の商品量が消費から消えて行く。消去する量に其の課税額を乗ずれば金錢に評價されたる其の利用を與へる。斯くして遂に一人の消費者なきに至る迄税を高めて行つて、各出來高を合計すれば品物全體の利用が求められるであらう。

此の定理を例に依つて明にしやう。吾々は通行が無償にして且年々二〇八〇〇〇〇人の通行者を存する徒歩 *橋 un pont de pietons の利用を知らんと欲する。* 〇〇一法の通行税がこの數を三三〇〇〇〇丈減じ、〇・〇

二法の通行税は二九四・〇〇〇を減じ以下同様と想像せよ。

吾々は云ふ、三三〇・〇〇〇の通行者にとつては其の利用は殆んど……〇・〇一法、次の二九四・〇〇〇に就いては同じく……〇・〇二法であると、斯くて吾々は次表を作成する事が出来る。

330,000の通行者…一人 = 付	0.01	利用の生産	3.300
294,000	0.02		5.880
260,000	0.03		7.800
228,000	0.04		9.120
198,000	0.05		9.900
170,000	0.06		10.200
144,000	0.07		10.080
120,000	0.08		9.600
98,000	0.09		8.820
78,000	0.10		7.800
60,000	0.11		6.600
44,000	0.12		5.280
30,000	0.13		3.900
18,000	0.14		2.520
8,000	0.15		1.200
<u>2,080,000</u>			<u>102,000</u>

公共的義務の利用測定に就いて

一〇二・〇〇〇法は社會に對する橋の絶體的利用である。之より維持費及び建設に於ける投下資本の利子を差引けば相對的利用が得られる。後者が若し一〇二・〇〇〇法に達するか、又は之を超過する時は建設は利用を生産せず其の差は蒙りたる損失を示すであらう。右は無償通行に對して爲すべき計算である。若し通行税のある場合には課税額以下の數字のみを取る事を要する。即例へば〇・〇五法の通行税に對しては橋の絶體的利用は其れ以下の十個の數字の和或は六六・〇〇〇法に依つて説明せられ、失はれたる利用はその上の五個の和或は三六・〇〇〇法に依つて説明せられる、通行税の收入額は、〇・〇五に就いて七七〇・〇〇〇の通行人がある故に、三八・五〇〇法である。かくて此の場合に於ては橋の可能的利用は次の如くに分割せられる。(次頁上部参照)

通行税が増加するに従つて橋の利用は減少する、夫れは通行税の高が〇・一五法になると同時に零となる、これは極めて明白である、蓋し橋を通る者は一人も無くなる故に。依つて斯くの如く利用の損失は一〇二・〇〇〇法に迄達する事が出来る。これは換言すれば通行税を以て非常に輕かるべしとするか若しくは全く廢止すべしと云ふ事であるか。吾々は税率を論ずるものに止まる故に斯くの如きは吾々の結論では無い、併し吾々は能ふ限り大なる利用と、維持費及び投下資本の利子を償還する收入とを、同時に生む爲には吾々の數字が合理的原則に従つて研究され結合される事を必要とすることを認めて欲しいと希望する。

徒歩橋の代りに諸君が車の橋を持つならば同様の計算を課税の各目的物に對して、即騎者に對し彈機附馬車に對し二輪荷馬車に對し、其他に對して適用し、其の各利用の合計を作れば充分であらう。

通行税の徴収者に對するもの	38,500
通行者に對するもの(66,000-38,500)	27,500
通行税が無くば存すべかりし1,310,000の通行者が蒙る損害	36,000
合 計	102,000

吾々が提議する計算の形式は一般的である、通行に代へて表に於て一足の靴下を書くならば諸君は同様にして靴下機械の利用を見出すであらう。若し諸君が課税はかくして機械製の靴下にのみ落つるであらうと想するならば諸君は、完全に此の機械の使用を驅逐して手製の靴下に歸らしめる様な數字を附すればいゝ、此の數字以下の合計は諸君に靴下機械の利用を與へるであらう。更に進んで靴下に落つる課税が其の製造方法を問はずと想像し、且つ課税が最後の一足迄も消失せしめる點に達するとすれば、此の合計は諸君に靴下と云ふ被服の利用を與へるであらう。

若し國道及縣道の運送の利用を求めんとすれば同様に交通課税が次第に上るものとして其の結果順次に是等道路の總噸數五〇〇ミリオンの中或噸數が消去るものと想像すればよい。各噸に其の流通を阻止した課税を乗すればその利用が得られる。人は此の合計數が生産費なる五〇〇ミليونとは何の似た所もない事を知るであらう。

扱殘る所は吾々の定理が完全である事、及びそれは人が考察する品物の全利用を説明して加ふべき何ものもない事を明にすることのみである。實際一生産物の生産費が減少するときは同時に競争に依つて同一諸品が従來得て居た價格或は同種類品の價格を同じ點迄下落せしめる事は屢々ある。かくて人が運河に依つて石炭を得る場合には

公共的勞務の利用測定に就いて

其の石炭は正確に定理の與ふる利用を有する。然し此の石炭が市場に現はれる事から競争の結果として運河が輸送しない木材の價格を低落せしめる事が起り得る。若し一ステール (ton) は一立方米、に付いて二法の下落があり、人が尙一〇・〇〇〇ステールを消費する場合には、此の二〇・〇〇〇法の利用は運河に負ふものと云ふ事は出來ないであらうか。他方に於て、反對に運河が非常に多くの木材を持去る爲に此の處で消費される木材の價格が騰貴する事がある。茲に於て運河に苦情が出る、曰く運河はある國に於ては非常に有用であらう、然し木材に對して二法高く支拂ふ吾々に取つては毎年二〇・〇〇〇法の失費がある。二〇・〇〇〇法は運河の利用から差引く事を要する、と。最後に人は屢々交通機關は收入を増加し、運送する財貨の價値を増加し、課税の收入を増加する等と云はれる事を聞く。吾々は是等の間接的效果の詳細に立入る迄も無く、其等の測定は前述の定理に含まれて居る事、或は夫れは公共的富の分配の變更にすぎずして、其の増加と減少との間には相殺が行はれる故に勘定に入れてはならない事々明にする事が出来る。之を勘定に入れてはならないと云ふのは吾々が單に利用の計算に就いてのみ語る事を欲するが故である。之に反して國家は慎重に之を予定すべきである。或る新交通機關が作られる、それは多數をとつた社會に對しては一〇ミリオンの利用を有すると同時にビエールの懷中からジャツクのそれにミリオンを移すことがある。假令最初には之が特殊の不幸に過ぎないにしても、それは順次に公の富及び運命に反動を齎す。而して國家は之を阻止し、修理し、緩和する事に於て利益を有するものである。

利用の増加又は減少がある爲には、質に於て變化が無い限り、生産費に減少、又は増加のある事を必要とする。

故に賣價に於てのみ起る變化は消費者が生産者の失ふ所を利益し、或は其の反對となるに止まる。斯くて或る物の生産費が二〇法であるのに獨占又は特權に依つて夫れが五〇法に賣られる時は、生産者は總ての獲得者に就いて三〇法宛の利用を奪ひ去る。若し或事情に依つて彼が其の價格を一〇法だけ低落せしむる事を餘儀なくせられるならば、彼の収入は一個に付き一〇法減少し、獲得者の夫れは一〇法増加する、そこに相殺はあるが利用の生産はない。若し賣價の低落原因が生産費の減少に存せしならば、消費者の利益は生産者の損失に依つて相殺せられざるが故に利用があつたであらう。故に運河に依つて運ばれる石炭がその到着する國に於ける木材の價格を下落せしめる時は木材の所有者の収入は消費者の収入が増加する丈け減少する。若し之に反して運河が木材を運び去る爲に残りの木材の價格を騰貴せしめる時は其の所有者の収入は消費者の夫れが減少する丈増加する。素より其の相殺は屢吾々が示した様には正確に行はれない、即賣價の下落は實際上消費の増大を來し、かくして新消費者に對して其の生産物が從來有せざりし利用を得る事がある。然し事物の成行を今少しく精査する時は假令實際にこの利用の増加があらうとも、之は單に賣價を下落せしめた公共的勞務にのみ歸すべからざる事を見る、蓋し之は亦單純なる立法的手段に依つても得られるが故である。例へば人は、木も石も鐵も何も運送しない、而も買手に對しては、是等を安價に買ひ得る能力を與へる事に依つて、又從來の生産者に對しては、市場の給養を保つ爲に、其の價格を低落する事を余議なくせしめる能力に依つて、總て是等の品物の價格を低落せしめる様な運河を想像する事が出来る。仍で消費の増加に依る價格の低落に基く所の一切の利用が何物をも運送しない、云はゞ

自由勝手に作り得る一種の假設に過ぎない此の運河に歸すべからざる事は明白では無いか。それは一切の自由競争に基く利用の生産に就いて然りである。

或る橋が通行税を取る會社に大なる利益を與へて居る時、競争會社が其の側に橋を作つて、前者をして料金を半分にする事を余儀なくせしめ、通行者は第一の橋に於て二倍となるとすれば、生産される利用は著しい割合に於て増加する。此の増加は何人も通行しない第二の橋に基くものであらうか。明にさうではない、是は第一のものから従來得て居た料金を下げた事の結果である、反對に多大の資本を消費した第二の橋の建設は公共的利用を減ずるのみである。故に公共的勞務の利用測定を考察するに際しては利用の生産に直接貢獻する商品のみを考ふべきである。依つて之に對して遙か以前に説明した評價方法を適用する時は、人は何物をも逸しないと同時に又何物をも余分には考慮しない事を確信し得るであらう。

吾々は實際吾々の抗争して來た方法が諸の點に於て不正確である事を明にした。第一に吾々は利用の測度を得る爲に比較さるべきものは運送費に非ずして生産費なりし事を認めた、之れ第一の誤。次で吾々はこの經濟を従前の消費量を超過する生産物に適用せる事が第二の誤なりし事、及び新生産物に對しては、そは第三の誤なりし事を認めたのである。残る所はこの方法は一の機械が消費量を變更する事なしに他の機械に代へられ得る少數の商品に限られて居る點に於て、殆んど常に第四の誤なる事を明にする事である。實際に於て、費用を減少する製造の變更が同時に生産物の性質を變更しない事は稀である、それはより善くより悪く、より大により小に、より

軽くより重く、より速に、より遅く、等するものである。所が是等一切の性質は利用の計算に當つて勘定に入れるべき或る價值を有する。即吾々がナヴィエ氏に借用した例なる運河と道路との比較——その場合運河の利益は一里に就いて〇・八七法であると評價される——に於て、此の計算は從來平行なる道路に依つて行はれたと同量を實際運河に於て運送する所の商品に對してさへ不正確であらう。實際より速なる、より規則的なる又損害の機會のより少なき道は、商業が屢々大なる價格を附する所の利益を表示するものである。この〇・八七法の利益が其の商人をして運河を採用することを決心せしめるとしても、恐らく彼は常に運河の遅延や、其他一切の不便から逃れるに充分なる在庫品を自己の手許に所有せんが爲に倉庫を買ひ、流通資本を増加するのであらう、而して是等的一切が考慮せられる時は〇・八七法の運送の經濟は僅に數サンチームの利益より示さない事となるべく、而も彼が之に基いて新手段を取る決心をなす事も又極めてあり得べき事である。この新手段の利益は、併し乍ら、彼に取つては正確に此の數サンチームに過ぎない、若し運河に設けられたる通行税が之に等しければ商品はもはやこの機關を利用しない、茲に諸君は商品に對する運河の眞の利用測定を得るのであらう。人が支拂はんと欲する所以外に利用はない、故に生産費に於て〇・八七法の經濟ありとしても、其の物は然らざるも尙生産されるが故に利益は二、三、サンチームに過ぎない事があり得る。生産費に依る右の比較方法は、ある道路に従つて走り乘客を他のものよりも高價に運送する諸鐵道の一切の種類の利用を拒絶する事となる、彼等の唯一の利益は、其の速度である。それは幾何に價するか。乘客をして敏速を捨て、馬車に乘らしめざる限りの通行税のみがそれに正

確なる測度を與へるであらう。

人は右の方法が、その何たるかを問はず昔の状態を入れて居る事を見る。或る機械又は或公共的勞務の利用測定は絶體的の測定ではない進歩の測定である、それは人が出立した點と到達した點との距離である。茲に一噸の葡萄酒あつて新運河の百里を走り來れりとする、而して諸君は道路に於ては此の運送は一〇〇法を費すべかりしに運河に於ては一三法に過ぎざる故に八七法の利用か生産されたりと云ふ。大なる誤である、運河以前には此の葡萄酒は葡萄耕作者の穴倉から海港に送られる、其處で沿岸航海船は之を取つてある河口に齎す、葡萄酒は之を溯つて他の運河の口に達し、ある距離を走つた後運送屋に依つて目的地に着けられるのである。仍で新運河が開始せられた場合にも同様に種々の運送組織より成る新方向に従ふことを得しめるのみである、此の新手段が採用される爲には全費用に於て僅一法の差があれば充分である。故に百里の航行に依る運河の假裝的利用八七法は所要時間や道程の事情に變化なきものとして單に一法に減少せられ得るのである。

この事から同様に賑ひ、運賃も等しき二つの交通機關の利用間には舊交通方法の性質如何に従つて非常に大なる差が存し得る事を見る。即ち同様に賑ひ又同一料金を以て等しき收入を生む所の二つの鐵道に就いて一は甚だ有用にして他は殆んど無用なる事がある。即一は非常に長い、路の悪い、運賃が高くて而も遅い所の陸路を繼承し、従つて各乘客は車に乗つて大なる利益を得るに反して、地方は蒸汽船の勞務に平行し、其の乘客は既に甚だ短かい旅程に於て僅に數分の利益より得ないのである。斯くて料金を少しく引上げれば爲に一切の賑を失ひ、夫

れが實際極僅の利用より無い事を明にするであらう。然るに前者は若し同様の手段に出づる必要ありとしても一人の乗客をも失ふ事はあるまい。斯して二鐵道の中、より淋しき、より高價につく、より賃金の高き、より道の不完全なる方が遙に大なる利用を有する事があり得る。實際夫れを測定する爲には提供される勞務を考へるのみでは充分でない、更に之を研究する事を要する、小さい勞務を多數集めても結果に於て少數の大なる勞務に及ばない事がある。

利用の増大は總ての勞働用具の目的であり従つて又公共的勞務の目的でもあるか故に、吾々は今迄獲得利用の測定のみを取扱つて來た、併し一言損失利用の測定に就いて云ふ事もよいであらう、何となれば之は商品の價格を上げる一切のもの、效果であり、又公共的勞務を實行するには人は屢、直接に公共的勞務を利用する商品の價格を騰貴せしめる所の通行税に、又は之を利用せざる商品に就いて同様の効果を齎す所の課税に、援助を求めねばならないからである。故に是等の事情の下に失はれる利用を考慮に入れる事を知らねばならぬ。併し夫れに就いては數言にして足りる、蓋し明に夫れは吾々が獲得利用の測定に於て示した形式と全く同様な計算を行ふ事となるからである。

吾々は二〇法に於て一〇・〇〇〇噸の石を消費するある村に於て運河又は全く別の機械が建設されて生産費が一五法に減少する時は、其の結果として消費を三〇・〇〇〇噸に増加するであらうと想像した。而して吾々はこの生産費の減少に基く利用を次の如く評價した。

從來の消費者に五法宛の利益を與ふる舊消費噸數に對して…	50.000 ^法
新消費者に零乃至五法の異なる利益或は二・三〇の(平均)	
利益を與ふる新なる二〇・〇〇〇噸にて對し……………	46.000
生産されたる利用合計……………	96.000 ^法

所で何かの原因に依つてこの石に一噸につき五法の課税が爲されると想像せよ。買手に取つてそれは二〇法の價格に還る事であるから其の効果として石の消費を一〇・〇〇噸に減ずる事は全く明である。そこには満足されたる使用より存在しない、即石の利用がこの價格を越ゆる所の使用より存在しない。故に課税の收獲は五〇・〇〇〇法のみである、然しこれは納税者が失ふ利用に止まるであらうか。明にさうでは無い。課税の收獲に就いては、それは善良に使用されるものと想像すべきが故に國民に取つては失はれたるものでは無いとさへ云ふ事が出来る。これは單に公共的富の分配に過ぎない、而もそれは必然的に労働の増加を來さしめ、且其の労働は二〇法の生産費の中に書き込まれるが如くにして社會に取つては損失とはならない。併し、一六法に於ては買つたであらうと云ふ人々に取つては實際の損失がある、即彼は一五法の場合には之を買つて一法の利益を實現して居たであらうに、その利益を彼が支拂はざるにも拘はらず五法の課税に依つて奪はれたのである、同様に一七法で買ふべかりし人々には二法の損失がある、以下同様、此の全損失を評價する爲には課税の各變動に應ずる消費の減少を知れば充分である、斯くて吾々は前に作つた表に歸る、その表は課税が消費を阻止した二〇・〇〇〇噸の石に就いて利用の損失四六・〇〇〇法を與へる、か

くて一方課税の収入は五〇・〇〇〇法に過ぎず、他方社會に於ては四六・〇〇〇法の利用が失はれる事となる。吾々は課税の率が尙其の生産費に對して甚だ穩當なる即三分の一にすぎない（五法對一五法）一例を用ひた。併し消費の課税中には其の物の價値の二、三、四倍のものがあり、それは大なる消費の減少並に課税の收入に對しては比較にならない程大なる利用の損失を社會に齎すことがある。今日は郵便の事務が二五ミリオンよりかからぬのに、納税者は其の勞務に對して五〇ミリオンを與へて居るのであるが、人は行政が非常に氣が利かない爲に、遂には手紙の税金の數字をして其料率の三四五倍にも達せしめる場合を想像して自ら此の效果の觀念を作る事が出来るであらう。この結果の可能なる事を知るには一瞬の反省にして足りる、實際税金の増加するに従つて手紙の數は減じ、遂に諸君が誰も一の手紙の運賃としてこの價格を支拂ふ事を欲せざるが如き税金に達する時は零となり終るであらう。夫れより稍輕き料金に於ては諸君は二三の手紙を有すべく従つて又甚僅なる收入がある。故に實際に課税の收入を二五ミリオンに止める現實の料金よりは非常に高い税金が存在し得る。この状態の下に於ても納税者は他の場合よりは二五ミリオン少く支拂ふが故に事實に於て減税されて居るにも拘はらず、尙彼等は課税あるが爲に運送せられざる手紙に就いて大なる利用を失ふて居る事は明ではないか。茲に於て人は各國の豫算の間に爲される是等の比較が如何に妄なるかを見る、或は曰く吾々は二五ミリオン支拂ふに諸君は五〇を支拂ふ、故に吾々の政府は諸君の政府の二倍よいと、所がこれは其の二五及び五〇が如何に使用されるかを知る問題を離れてのみ真正であり得る對照である。二五の課税の惡結果が遂に五〇の夫れより大なる場合は屢、ある。諸

君は實際課税を支拂ふ階級の人民のみを考へて居る、然し出來ない爲に支拂はない、従つて消費する事もしない所の遙に多數の者をも考慮せねばならない。故に課税の分割が定率税よりは遙に公共的繁榮に影響する事多き事情は屢々存在するのである。

公共的勞務の問題に於て示した方がよいと思はれる課税の一般的性質を指摘しやう、蓋し公共的勞務は必然的に通行税にせよ、課税にせよを惹き起すものであるから。

二つの欄に、最も大なる消費を齎す零の價格より一切の消費を消去せしめる最高の價格に至る迄の各賣價と之に應ずる品物の消費數を書くと思像せよ。この關係は如何なる物に就いても知られては居ない、或は之を知る事は決してないだらうとさへ云ふ事が出来る、蓋しそれは斯くも可變的なる人間の意思に依存するからである。今日ある所のものはや昨日のものでは無い。故に之を経験及び模索に依つて正確に決定せんとする事は、云はゞ無用である。併し乍らその動搖に於ては常に従つて止まらんとする一般的諸法則があり、又この一般的諸法則より不變的なる一般的諸原理がある。其等の法則の一は價格が減少すれば消費は増大すると云ふ事である、今一つは價格の減少に基く消費の増大は價格が既に甚だ低き時程彌、大なりと云ふことである。若し一〇〇法する或る物が九五に下落する事に依つて千人の消費者が得られるならば九五より九〇への下落に於ては更に多數の消費者が得られるであらう。これは人が收入の順序に依つて範圍を定め且それが最も貧困なる者から始められると思像する所の社會の構成から生ずる特質であり、それは人が砲兵兵器廠に於て見る砲彈の一のピラミットの圖を示

す、その個数は低い方程多いのである。故に一物の價格が下がれば吾々が屢、説明したる如く舊消費者が更に多量に消費する事を想定せずとも、其の使用は消費者を益、多數に擴大する事を知る、如之これは吾々が之を明ならしめんが爲に後に主張せんと欲する統計に依つて屢證明せられたる經驗的事實である。

茲に於て人が課税に依つて消費に齎される變化を知れる時は、消費量の差に課税の半分を乗じて失はれたる利用の最大限度を見出す事が出来るであらう。機械に依つて作出される利用に就いても同様である。かくて吾々が計算の基礎にとつた石の消費の例に於ても、吾々は價格に於ける五法の減少は二・三〇法なる半分の利用より與へない事を認めた。吾々の置いた數は明に假設的である。併し、それが如何様に爲され様とも、それは吾々の稱する法則に従ふものなるが故に、常に二・五〇法以下の結果を與へるであらう、蓋し此の數字を得る爲には、二〇法より一九法への低落に依つて二・〇〇〇、一九より一八の夫れに依つて二・〇〇〇其他、一六より一五の夫れに依つて二・〇〇〇と如く増大された二〇・〇〇〇噸の消費量が均等なる形式に於て與へられて居ると想像する事を必要とすべく、而も價格の低落するに従つて消費者は次第に數を増す故に、それは不可能であるからである。依つて人は價格の變化に依る利用の得失は其の最大限度として消費數の差に價格變化の半分を乗じたるものを有すと云ふ原理を提出する事が出来る。かくて五法の課税に依つて三〇・〇〇〇の消費者が一〇・〇〇〇に減するならば國民にとつて失はれたる利用は $30,000 \times \frac{1}{2} = 15,000$ 法以下である。又人は容易にこの限度は課税の小なれば小なる程眞實に近い事を見るであらう。

課税の増加に伴ひ、消費は順次に遅く減少するものではあるが、價格に對して弱き課税に就いては減少が均整になされると見做すことが出来る。即或る品物が一〇〇法する時人が之に一法の税を課するとすれば、減少する消費者の数は二、三、四、五、六、法の課税が與へる量と大した相違が無い、何となれば一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六なる數の關係は大して異ならないからである。仍で一法の課税の効果として失はれる利用は或る未知數に一の二分の一を乗じたるものであり二法の課税に依つて失はれる利用は此の數の二倍に二の二分一を乗じたものであり、三法に對しては $\frac{1}{2} \times \frac{1}{2}$ である。故に人は是等の課税に依つて失はれる利用は課税の二乗に比例すると云ふ事が出来る、かくて一〇法の税は一法の税よりも百倍の利用を失はしめるであらう。人は税の分割が如何に大なる利用を齎すかを見る、或る物に一〇法の課税をする代りに一法を十度課すれば利用の損失を一〇〇に對する九〇丈減少する事が出来るであらう、更に課税の收入が税金に比例的ならざる事を注意せよ、一〇法の課税は一法の課税の收入の十倍は與へないのである。

苦し課税を零より禁止に等しき數字に迄漸次に増加してゆけば其の收入は零に始まり次に緩漫に増加し、最大に達して、順次に減少し、遂に又零となる。この事から國家が課税の手段に依つて一定の金額を得んと欲する場合には常に收益を最大ならしめるもの上下に於てその狀件を満足せしむべき二つの税金がある事となる。同一の收入を與へるこの二個の税に就いて利用の損失には重大な差が存し得る。極く僅より異ならぬ課税の數字は殆んど相等しき收入を與へるであらう、而かも利用の差は注目するに足るものがある、故にこの状態に於ても撰擇

の余地は充分にあり得る。

總て價格増加の結果なるこの利用の損失は獨り通行税及び課税に特殊なるものではない、それは生産費を表はす價格そのものに於ても起る、人は之を自然的富に課せられたる課税の如くに考へる事が出来るのであらう。かくて一物の價格は早に之を支拂ふ事を余儀なくせられるものを害するのみならず又この價格の故に之を得る事能はざるものにも妨害となる。價格を減少する機械、之を騰貴せしめる課税は故に既に存し、同様の方法を以つて計算し得べき不便を減少し或は増加するのみである、蓋し生産費を極僅なものに減少するのは機械の利用に外ならないが故に。依つて零の價格より實際の價格迄の利用を測定する事のみがあり得る、而してこれ吾々が既に早く無償通行の橋の假設に於て爲したる所の計算である。通行の價格に代へて人はこれが何か或る物の價格であると想像する事が出来る、その場合人は全く同様の結果に到達するであらう。費されたる労働の償還に非ざる價格に依つて失はれる利用は政治經濟に於て機械に於ける摩擦の役目を勤める、疑も無くポンデザール (*Le pont des Arts*) は之を通行する總ての人々から〇・〇五法の利益を取り去る、併し乍ら若し夫れが投下資本の前借の償還に止まるならばそれは人類の状態並に人間精神の實際的進歩に必然なるものであり従つて甘受すべきものである、更に又それが之を設ける者に對する利益に止まるならば公共的富に於ける分配の變更にすぎずして全體に影響する所は極僅かである。然し之が全部では無い、〇・〇五法の通行税は大に此の橋の利用を取り去る (吾々はこの〇・〇五法の價格はこの生産物の利用の大なる部分を取り去るとも云ふ事が出来る) 蓋しそれはこの通行に對

して〇・〇四、〇・〇三、〇・〇二、〇・〇一法の利用より認めざる多數をしてポンヌフ (le Pont Neuf) を通行する事を余儀なくせしめるからである。茲に損害は完全であり何等の補償も行はれない、これ機械學に於ける無用摩擦である。諸君が二疋を一米上げんとする場合、若し諸君が之を二米だけより走らせる事を強ひられないならば、諸君は諸君の爲す一疋の努力をこぼす事は無いであらう、自然の法則を變更するに非ざる限り、之はかくあるべきである、併し諸君がこの努力に對して三、四米を走る事を強制される時は、茲にこれこそ諸君の學ぶ機械學が證明し減少すべき無用の摩擦がある。同様に政治經濟は價格の變化より齎される利用の損失を減少する事を教へる事が出来る。吾々は茲では單に其の測定に役立ち得る原理のみを求めた、吾々は以下の諸章に於て其の應用に努めるであらう。

恐らく人は吾々が定理を與へた所の計算は如何なる統計も供給する事を得ざる事實に依存し、かくて人は決して正確なる數字に依つて一機械一道路或はある勞働が興ふる所の利用、又は課税や通行税の効果として失はれる利用を説明する事には達しないであらうと攻撃するであらう。

吾々は人が或る事物を知る事を得ない時は、人は何物をも知らない事を知るを以て充分なりと答ふるに止める事が出来る、若し最初に自ら國民の富を測定せんと欲した人々が商業の均衡の定理を主張する代りに此の問題は自分達の力を超越せるものであると宣言するに止めて居たならば、彼等は恐らく、遙か後に彼等の誤謬を指摘する人々よりも偉大なる仕事を爲し得たであらう。實際この意見の影響の下に諸國民の商業の間に設けられた障害

は、あらゆる眞實なる原理の議論に抗争した、又更に數代の間抗争しつゞけるであらう。併し乍ら政治經濟の總ての問題と同じく、利用の測定の問題に於ても嚴格なる解決は實際的に不可能である。而も此の科學のみが夫れに近づく手段を供する。人は或運河の利用が五ミリオンに過ぎない事をより知らない、而も人はそれが六ミリオンでは無い事を知り得る、而してこれ其の建設を止むるに充分である。人は或る橋の利用が一二〇・〇〇〇法であらうと云ふ事より知らぬ、而も人はそれが八〇以上なる事を知る事が出来る、而してこれその甚だ有用なる事を知らしめるに充分である。一般に政治經濟に於て完全なる解決に達する爲に缺くる所は事實である、併し此の不便は其の基礎として役立つ所の一般的の規則並に原理の智識を一層必要ならしめるのみである。獨り其等のみが、人が知らざるものを理解する爲に既知のものより出立する事を教へ、又欠けたる所を示し、其結果出来るものならば之を求め、之を見出す手段を供し不可能ならば之を補ふ手段を與へ得るものである。夫れに關しては政治經濟は幾何學と等しい。幾何學は四邊形、三角形、圓の如く一般的に規則的なる形の上にのみ其の原理を置くものなるに拘はらず、而も人が唯數點のみより知る事を得ざる、小川や小路の曲りに曲れる周圍に依つて限らるゝ廣場の面積を測定する事を教へる。知られたる點は充分であるか、缺けたるものは何であるか。如何にして夫れを得べきか。人が夫れ無しで濟す事を余儀なくせられる場合には如何なる程度の近似を得べきか。茲には計算の一切の要素が或る嚴格なる明確さを以て供されて居る場合に比して更に一層正確なる更に一層深遠なる幾何學の智識を要求する所のそれだけの問題がある。同様に政治經濟の諸問題に就いても實際に於て巧妙確實に之を取

扱ふ爲には、人が用意する事實がより不完全あり、より不確實であればある程、此の科學の要素の嚴格なる原理の中に没頭する必要があるのである。

備考

利用に就いて展開して來た諸考察は極めて簡單に之を幾何學的に表示する事が出来る。

Op (第一圖)なる直線上に品物の價格を現はす長さ Op Op' Op'' を取り、此の諸點に垂直なる線分 $pn, p'n', p''n''$ を以て各、此の價格に應じて消費せられる品物の數を現はすものと想像すれば、吾々は N, n, n', n'' なる曲線を得る、吾々は之を消費曲線と呼ぶ。ON は價格零なる場合の消費量を示し Op は消費が零となる場合の價格を示す。

pn を以て價格 Op に於て消費せられる品物の數を示す時は、矩形 $Opnp$ は pn の品物の獲得費を示す、或はジエー・ペー・セイに従へば其の利用を示す、吾々は既に pn 物品の利用はあらゆる人に對して少くとも Op にはある、而も殆んど全部の人々に對して Op よりも大である事を證明したと信ずる。實際に於ける垂線に進めば吾々は pn の品物を得る、其の利用は少くとも Op' である、何となれば人はこの價格に於てそれを買ふが故に。従つて pn 物品の中に於て利用が實際に Op よりないものは或は恐らく Op' と Op'' との中間なるものは $pn - p'n' = pn''$ に過ぎない、残りのものは少くとも Op' の利用を存するものである。茲に於て吾々は pn 物品に對する利用は平面 $mnnp$ に依つて示され且つ残りの pn 或は pn' に就いての利用は $pn - p'n' = pn''$ なる矩形よりも大であるとの結論に達する。次に價格が新に $p'n'$ だけ増加したりと想像する時は、吾々は $pn - p'n' = pn''$ の物品に對する利用は Op' と Op'' との中間にあり、且それは測度

Fig. 1

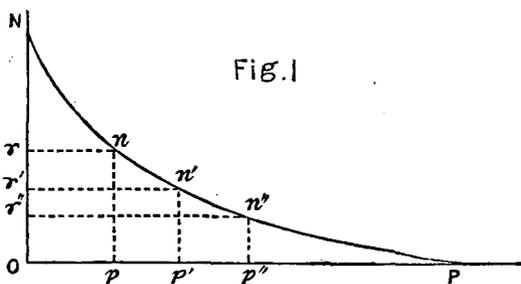
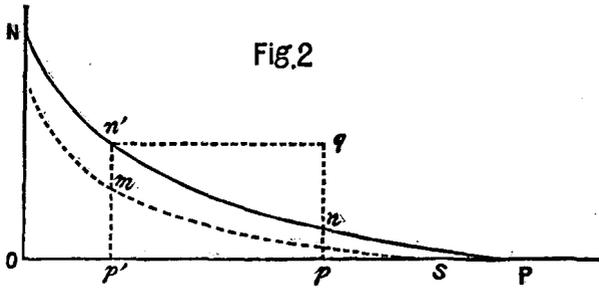


Fig.2



として平面 $n'n'p'$ を有する事を證明する事が出来る。以下同様にして吾々は m 物品の絶體的利用は消費者に對して不等四邊形 OmP であることの證明に達するであらう。若し人が相對的利用を得んと欲するならば獲得費用即短形 mnp を控除するは足りる、即残る三角形 mnp は吾々に從へば m 物品の消費者が支拂をなして後彼に残される所の利用である。吾々は此の三角形の面積は mn 線の前方にあつて之に先立つ短形の面積とは何等の交渉を有しない事を見る。

自然的産物にして生産費を要しない物に就いては利用は三角形 NOp の大いさき以て説明せられる。

人は物品の價格が騰貴するに從つて其の利用は減少する、而も減少の速度は益々少くなること並に價格が下落する場合には利用は益々速に増加する事を見る。蓋し利用は其の表現として漸減する三角形を有するからである。

製造の増加に依つて、生産費は何等其の質を變ずる事なく Op より Op' (二圖) に減せられるが故に、其の利用は二三三角形の差 $n'n'p'p$ 或は不等四邊形 $n'p'pn$ だけ増加する。ナヴィエ氏に對して吾々が攻撃した誤謬はこの四邊形の代りに短形 $n'p'S-npP$ を取る事にある。

若し質が變化し、例へば低落したとすれば、利用はもはや二三角の差 $mp'S-npP$ に過ぎない。而もそれは新消費曲線の形に從つて非常に小さく或は零になる事さへあり得る。 Op を以て(第三圖)或る安價にして多量に消費される品物の價格とする。非常に輕い課税 pp' は其の收入として短形 $pp'n$ を有すべく、納税の爲に失はれる利用は小三角形 $n'p'n$ である。若し課税を二倍にする時は國庫の爲としては短形 $pp'n$ を有すべく失はれたる利用 $n'p'n$ は

抽象的觀念にある形體、形式を與へ、且つ人間の智的能力に貢獻する爲の意味を呼び起すに止まらず、尙其の公式は、此等の觀念を理解し、修理し、變形し、且つ人心をして市場が一度は一切を制御した所あらゆる車輪の運動に従ふ事を余儀なくせしめる事なしに、其等が含有する一切の眞理、正義、正確なるものを説明する。これ觀念の一定の順序に於て吾々をして考ふる事を得しめる機械であり、そこには産業に於て吾々の爲に働く機械と同様の役目を爲すだけの利益がある。

中山伊知郎譯

デュブレイの此論文はジュヴォンスの紹介以來有名なものであつて、我々は是非一度は見なければならぬものである。然るに、其れが、經濟學に關係なき雜誌に掲げられてあり、其雜誌を入手することが、甚だ困難であるため之を見ることを得た人の數は極めて僅少である。私も年來之を欲しつゝ、見ることを能はざるを、一恨事として居たものである。然るに、先頃我商科大學でメンガー未亡人同令息の非常なる厚意によつて入手し得たメンガー先生の手澤遺書中に此文をのせた雜誌の存することを、中山君が発見せられた由承つたので、私は同君に懇請して、此邦譯を作つて頂いたのである。私は中山君の此譯文を、忽の間に拜見したもので、而して、メンガー文庫整理中のため、右雜誌を借り受ける便がないので、甚だ残念乍ら、原文と譯文とを對照することを得なかつたのである。唯譯文は忠實な中山君の手に成るものであるから、十分に安心し得ることと思ふし、筆路は暢達平易であるから、諒解を妨げられることないだけを、確かめ得たに過ぎない。折角中山君が數週の間、

私の手許へ此譯文を託されたにも拘らず、私は極めて短時間に一讀過したに止り、何等の加筆をも敢てし得なかつたことを、深く中山君に陳謝しなければならぬのである(十三・四・廿二旅程に上るに際して認む)。

福 田 徳 三